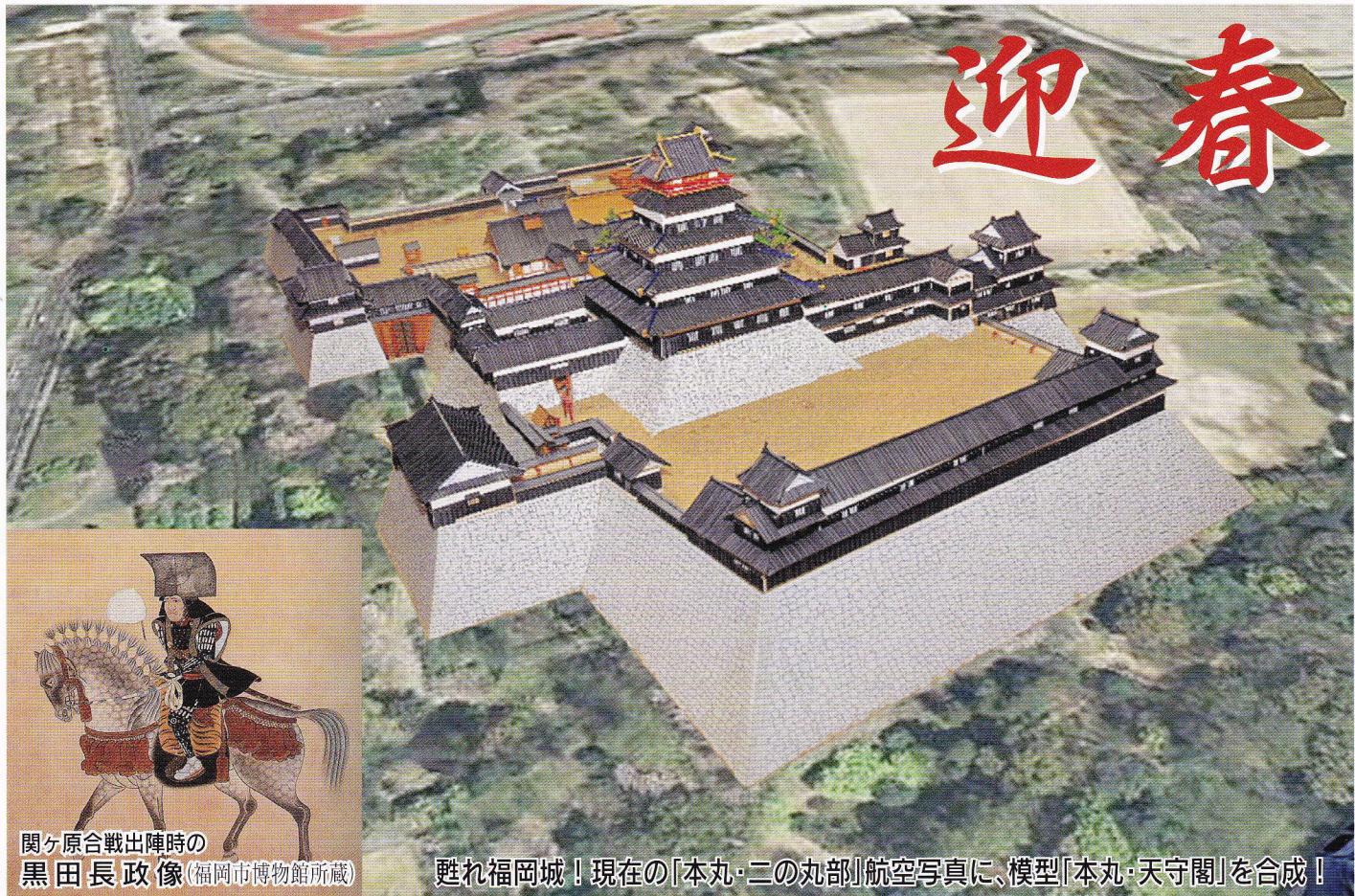


— 城のある都市復活 !! —

福岡城にようこそ

2011年1月
NO.28



関ヶ原合戦出陣時の
黒田長政像(福岡市博物館所蔵)

甦れ福岡城！現在の「本丸・二の丸部」航空写真に、模型「本丸・天守閣」を合成！

模型制作：筑前城郭研究会・小田原呈嗣氏

写真提供：パナソニック松力会・福永政治氏

「もう一度ここからの風景が見たい。」
そう、平成の今の世にあっても大濠公園を見晴らすには、やはり福岡城から以外にはないとと思うのです。
北に城下町、東に博多の町、南には油山。そして西には、後に整備されて大濠公園となる「大堀」が広がっていたはずです。沈む夕陽が水面に映えて、さぞ壮観だったことでしょう。鳥のさえずりが風に乗って聞こえてきたかも知れません。

城に思いを馳せてください。そこに天守があつたとすれば、その最上層からの眺めはどうだったでしょうか。城に思ひを馳せてください。そこに天守があつたとすれば、その最上層からの眺めはどうだったでしょうか。

周辺のマンションも随分増えました。その多くは池に向かって建ち、宣伝には公園ビュー、すなわち眺望の良さが謳われます。ただこの景色を楽しめるのはマンションの住人だけ。私たちみんなではありません。それならNHKが屋上を解放すればいい展望台になるのではないか?当然のご要望だと思います。

しかし残念ながらNHKにはヘリポートが設置されています。ヘリは普段は福岡空港にあって、そこから現場に飛んでいきますが、屋上にも万が一の緊急事態のためにヘリポートを整備しているのです。そこには手すりがありません。安全上の問題で一般の方にはお入りいただけないのです。

それならばどうやら?ここからが本題。皆の福岡

みなさんが存じのよう、NHK福岡放送局は、市民の憩いの場の大濠公園のすぐ南側にあります。天神から移転して18年、大変恵まれた環境の中で仕事をさせていただいてきました。夏の花火大会、一周2kmのジョギングコース、子供連れでも楽しい美術館……。水と緑の大濠公園の人気は年々高まっていいるようです。

大濠公園を見晴らしたい

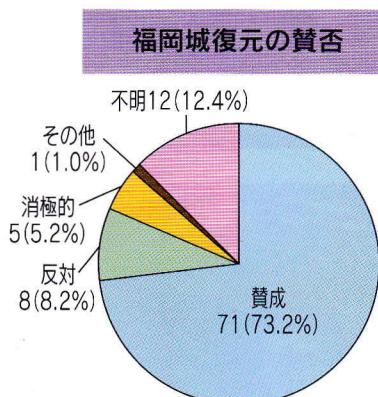
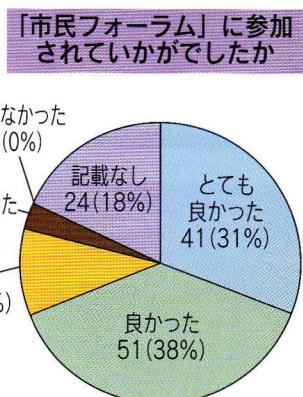
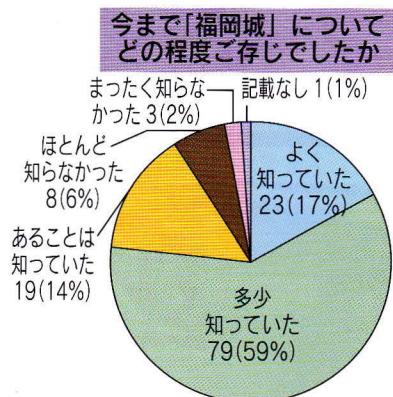
NHK福岡放送局

局長
遠藤正雄



10月2日に官民共働勉強会にかかる市民フォーラムが「福岡城が今ままでは勿体ない。文化・観光都市で、景気浮揚と健やかな子供教育。知らないでは済まされない、福岡城の価値を徹底討論」の主旨で開催されました。その際の参加者のコメントを集計しました。

有効回答数	133人
(内)コメント記載あり	97人(72.9%)
(内)コメント記載なし	36人(27.1%)



(133人中コメント記載97人の内訳)

【復元賛成】抜粋コメント

- ・親戚、友人が来福しても観光に連れて行く所がない。私共は、外国に行っても国内に行っても、お城があれば必ず見に行きたくなる。是非生きている間に実現したい。
- ・天守閣を早く建立すること。城の石垣がほとんど残っていて天守閣がないのは寂しい。
- ・日本の各有名都市には、全て、シンボル、観光名所として城は再建されており、福岡市も一日も早く再建が望まれる。学者の研究道具、遊び装具にして欲しくない。
- ・できるだけ元に復元する事、急ぐ事、スピード度。
- ・甦る福岡城を大いに期待しています。少しずつステップアップしていければよいと思います。
- ・幾10年後、資料を探し出し、天守閣を実現してもらいたい。今基礎があることは、設計図のもとに建築を始めていたことは間違いない。
- ・上の橋の楼門の復活が望まれる。石垣の切れ目を繋ぎたい。以上熊本城に近づけたい。
- ・周りの整備をちょっとすることよりも一挙に天守を造って、それから周りを整備する方が、市民が元気になるし、寄付も集まると思います。僕も喜んで寄付をしますよ。

【復元反対】抜粋コメント

- ・自分の故郷に全国に誇れる城があったと知り大変誇らしく思いました。ただ、今から復元した城にどの程度の価値があるのかというと少し疑問が残ります。なにかしら別の方法を、例えば、資料館を作り、そこで、CG等で再現する方がより現実的な気がしました。
- ・貴重な場を設けられたメンバーの皆様に敬意を表しますが、福岡城の復元、保存が目的化している印象。非常にフワフワした趣味の世界といった感覚を受けました。多額の資金を必要とする事業としての定義や必然性を具体化し、事業計画化が必要。又、福岡全体、九州全体のプランディングと観光のビジネスモデル化も重要。貴重な緑地公園をつぶして城を造るのは eco に逆行するととも言える。
- ・①福岡城：秀吉が播磨国黒田に作らせた侵略のシンボル。
②鴻臚館：太宰府の出先で、国際的な海外との窓口。地域のランドマークとして②がふさわしいと思う。自由都市福岡に封建的な天守閣はいらない。これまでなかった天守閣を何のために作る必要があるのか？福岡城は福岡のシンボルとして相応しいものではない。

【PR・啓蒙に関する主な意見】抜粋コメント

- ・官民共働の取組み、会議の中できちんと案を、一つでも具体的に早く実施して、人々にしらしめることが大事である。
- ・小さい事からでも具体的に行動しないと、講演会、フォーラムのみでは参加する人が限られて、波及効果が少ないと思う。

【基金・募金に関する主な意見】抜粋コメント

- ・福岡出身の多くの著名なタレントに協力を求め、イベントを複数回行えば、多くに資金が集められる。(数年前福岡城講演会で提案したが実施されてない)
- ・福岡市の収入を増やすために福岡市街化調整区域の一部を市街化区域に変更したら良いと思う。(特に西区)

【行政への要望等に関する主な意見】抜粋コメント

- ・市長選各候補に、本取り組み（福岡城）についてのスタンスを聞いてみるべきではないか？
- ・先ず、福岡市（教委）の役割に期待したい。”金無くば、知恵を出してよ福岡市” 熊本、金沢に続こう。県の役割は？

福岡城探訪

最後の藩主

十一代黒田長溥（二）

藤 金之助



十一代
黒田 長溥

（福岡市博物館所蔵）

齊彬の大叔父ということになる。

さて、福岡藩十代藩主、齊清には後継者が無く、二十代の頃からの眼病がますます悪化していたので藩としては内々養子の人選を進めていたが、それには健康で頭脳明晰であることが何より大事であると白羽の矢をたてたのが島津家の桃次郎であった。

その頃の桃次郎は十二歳ながら身体強健、すでに大器の風貌を備えていたので福岡藩は勿論、齊清も大いに気に入り、早速島津家に当ると、五十二万石の大藩でもあるし、重豪も快諾した。

文政五年（一八二二年）桃次郎は齊清の養子となり、名を長溥と改め、高輪の薩摩屋敷から霞ヶ関の福岡藩邸に移つた。

藩では、できるだけ早く長崎警備の御番をつとめてもらいたいというの

で、長溥は文政十年、十七歳の秋、初めて福岡に入るとすぐ翌年、齊清とともに長崎警備に赴いた。

齊清が旧知のシーボルトと会った時、長溥も同席しているが、実は重豪もシーボルトとは親交があつて、会話の途中、オランダ語を使うのでシーボルトが驚いたという。

実父の重豪、養父の齊清のこうした

影響をうけて、長溥はヨーロッパの文明に対する関心を深めてゆくことになる。

天保五年（一八三四年）十一月、長

溥は藩主の座につく。二十四歳である。

その後、天保の藩政改革の大失敗といふ不運に見舞われる。勿論これは長

溥の発案ではなく、家老の久野外記らが、藩の財政立て直しのため、早良郡の眼科医、白水養楨の案を採用し、積極政策を強引に進めたものである。

大量の藩札を発行し、博多の中洲に北の新地を作りここに料亭、遊女屋、芝居小屋を建て歓楽街とし、大いに金を使わせようという計画である。江戸の千両役者七代目、団十郎などを呼び大盛況となり、地方からも続々人が集

り、一時は相当の金が落ちたが藩内の風紀は乱れ華美浪費の悪習が広がり、藩札の価値は急落、物価は上昇するという散々な結果でこの改革は二年ほどでつぶれてしまった。

責任者はそれぞれ処罰されたが、長溥はこの失敗に衝撃を受け、以後、重臣まかせの藩政をやめ、藩主親政の決意を固める。

開明君主といわれた長溥は医学にも力を入れたので他藩に見られない蘭方医学の研究が進み、天保十二年、福岡で最初の人体解剖が行われている。シーボルトの門人で武谷玄立、百武万里の手によつて大浜の刑部で行われた。

長溥は藩内の殖産にも熱心で、石炭の開発や、その効能のPRにもつとめている。

有能力の藩士を選んで長崎に出し、西洋の学問技術を学ばせ、身分、出自を主に育てられるが、二歳年下の長溥がそれが後の黒田長溥である。

重豪の曾孫に島津斉彬（後の薩摩藩主）が居て、長溥とは兄弟のように一緒に育てられるが、二歳年下の長溥が

市民大学第三期生誕生

第3回福岡歴史・観光市民大学は6月28日に開講式を実施し、最終日11月29回目は博多伝統芸術・筑紫珠樂さんの講義と実演で盛会裡に終りました。11月29日に終講式が行われ、受講者の70%に修了証書が渡されました。

旧黒田藩領をめぐる歴史探訪(講師同行)

「黒田如水・長政親子」の九州戦跡を訪ねる

黒田如水は、天正15年（1587年）豊臣秀吉の九州征討に「強い軍師」として参戦し、豊前・豊後・日向口で戦功をあげ、中津城を築きました。

慶長5年（1600年）関ヶ原の戦いの後、大功をおさめた黒田長政が筑前の大守となって7年の歳月をかけて広大な城を築き、福岡城と名付けました。

以来ふるさと「福岡」が生まれ、400年後の現在「福岡県」「福岡市」として、九州の中心都市として発展を続けています。

毎年ご好評の「黒田親子」の戦跡を訪ねるバスツアーに、本年は「豊後・日向口」及び「文禄・慶長の役」時の戦跡も加え、内容も充実してまいります。

福岡城市民の会・会員の方は勿論のこと、友人知人の方々にもお誘いの上、お気軽にご参加いただきますようご案内申し上げます。

福岡城市民の会 事務局長 岡部定一郎

第1回	平成23年3月25日(金) ～26日(日)	秀吉の九州征討「豊後・日向口」を訪ねる 1泊2日(泊:宮崎プラザホテル・温泉かぐらまつり)
第2回	〃 4月16日(土)	黒田家、九州最初の拠点豊前中津城を訪ねる
第3回	〃 5月21日(土)	「文禄・慶長の役」肥前名護屋城と黒田陣屋跡を訪ねる
第4回	〃 6月18日(土)	九州の関ヶ原「豊後国東半島・別府」を訪ねる
第5回	〃 9月17日(土)	九州の関ヶ原「肥後隈本城・宇土城・佐敷城」を訪ねる
旅行代金	第1回 第2、3、4、5回	¥28,000 ¥ 9,000
募集人員	各回45名(最小催行人員、各回25名)	
企画	NPO法人、福岡城市民の会(略称)同行解説:事務局長 岡部定一郎	
旅行実施	(株)西日本新聞旅行	

お問合せ・お申込み (株)西日本新聞旅行:福岡市中央区天神1-4-1 TEL:092-711-5518 FAX:092-711-1969

編集・発行:
鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所:
〒810-0042
福岡市中央区赤坂1-12-15
福岡ビル2階

TEL:092-716-8238
FAX:092-716-8254
HPアドレス:
<http://fukuokajokorokan.nngo.jp/>
E-mail:
fukuokajo@tos.bbiq.jp

デザイン・印刷：S&Mトラスト株式会社

編集後記

新年おめでとうございます。
昨年は官民共働勉強会が開催され、市民の
会の方向づけが具体化されつつあるように
思います。

今後は基金の設立等も視野にいれた事業に取り組んでいきたいと考えております。躍進の年にしたいものですね。

会員の皆様方、これからもご支援ください
ますようお願い申しあげます

ホームページも充実してまいりました。
よろしくお願い申しめりります。

福岡城市民の会

検索

新日本製薬(株)

(株)やまき

正会員（団体）
三満宮横金手
上川本田島
達善二耕利英
比雄一貞雄
古植高関武関

一江正輝 孝
陽寛宏 博子成
柴稻高中生
田富杉山内
成修義典勝
文二郎子郎

正會員
(個人)
北馬高廣江
原島橋渡上
毅而春信文
一朗子義雄
野江中松富

正和美敏利臺太郎
津子子夫山田平川
浦内野本啓一
子衛考守

新規会員名簿 (平成22年12月27日現在)